川越時間旅行 36

都市景観課 Tel224-5961

防火と川越の町並み

川越の町並みの歴史は、大火への備えの歴史とも言えます。寛永15年（1638）の大火では、城内と城下の大半が消失しました。そこで藩主の松平信綱（まつだいらのぶつな）は、道幅拡張や寺院をまとめるなどの町割を行いました。これは火の延焼を防ぐための方策であると考えられています。この町割は現在まで、ほぼ継承されています。

明治26年（1893）の大火では、町の約3分の1が消失しました。この時、壁の厚い土蔵や蔵造りの大沢家住宅が焼け残ったことから、その後、町に蔵造りが建ち並ぶようになりました。大正から昭和初期には、鉄筋コンクリート造の近代洋風建築が耐火建築として町並みに加わりました。

大沢家住宅

平成11年、一番街周辺地域が重要伝統的建造物群保存地区に選定されたのを契機に、地区内に消火栓や消火器を設置し、住民が初期消火を行えるようにしています。

川越の歴史的な町並みを防火の視点で歩いてみると、蔵造りの重厚な観音開き扉やレンガ塀など、新たな発見があるかもしれません。

火の回り込みを防ぐ観音開き扉

農事組合法人 沼端（ぬまばた）

伊佐沼周辺に広がる水田。同じように見えても、実際には田んぼ1枚ごとに違う人が耕作を行っています。

農事組合法人沼端は高齢化や労働力不足などで作付けできなくなった農地での作業を引き受けています。現在、組合員は9人。伊佐沼東側の田んぼを中心に、約21haの農地を耕し、米や麦、大豆を生産しています。

「それぞれ自分の田んぼもあるから田植えの時期などは大忙しです。でも、みんなで協力して作業していますよ」と話すのは、組合長の泉名敏雄（せんみょうとしお）さん（古谷上）。

春から初夏にかけては緑のじゅうたんが、秋には黄金色の稲穂が広がる景観を守るために、大きな役割を担っている農事組合法人沼端。泉名さんは「今後も、地域の田んぼを守っていくために、作付けされない農地を積極的に引き受けていきたいです」と話してくれました。

今が旬！3月の川越野菜　市内の直売所などで購入できます

ブロッコリー、ホウレンソウ、コマツナ、ニンジン、トマト、サトイモ、キュウリ、菜の花、イチゴ、ネギ、ゴボウ、サニーレタス、カブ、ダイコン

編集後記 どんぐり

プロモーション映像に登場する外国人の若者たち。撮影の合間に焼き芋を頬張って「甘い！」と驚き、うな重は、全員が完食するほど気に入ったようです。4人は、歴史的な町並みや、川越まつりだけでなく、食べ物も堪能し、川越を後にしました。

動画共有サービス・YouTube（ユーチューブ）に開設している「川越市チャンネル」では、この映像の他、観光スポットの紹介や、過去に放送したテレビ広報を掲載しています。ぜひご覧ください。

YouTube「川越市チャンネル」

下の2次元バーコードからアクセスできます。

広報川越1338
■発行日／平成27年3月10日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
市役所代表 Tel049－224－8811　Fax049－225－2171
■編　集／広報室　　印　刷／㈲新広社

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。リサイクル適性Ⓐ
私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。